

指定管理者モニタリングシート（令和6年度）

施 設 の 名 称	富里市こども館（葉山キッズ・ランド）
施設の設置目的	児童福祉法（昭和22年法律第67号）に基づく児童の健全育成及び子育て支援の推進を図る。
施 設 の 概 要	【所在地】 富里市御料 923 番地 1 【構 造】 木造平屋建て 敷地面積 1,079.78 m ² 建築面積 501.53 m ² 延床面積 447.86 m ²
施 設 所 管 課	健康福祉部子育て支援課
指 定 管 理 者	株式会社 明日香
指 定 期 間	令和5年4月1日から令和8年3月31日
指定管理業務	(1) 子育て支援センター事業 (2) 一時保育事業 (3) 放課後児童健全育成事業 (4) 各事業の利用許可及び利用料徴収に関すること (5) 子育て支援に関する独自事業を行うこと (6) こども館の施設管理に関すること

■実績

①開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	25	23	26	25	24	24	25	24	24	23	22	26	291
R5	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	24	292
R6	24	24	25	26	26	23	26	24	24	23	22	25	292

②利用者数(子育て支援センター事業)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	682	577	877	704	448	739	788	799	793	778	902	1096	9183
R5	717	666	773	750	861	889	905	844	877	821	953	986	10,042
R6	866	926	1021	985	868	1102	1073	889	900	877	945	1024	11,476

■評価項目評価基準

評価	評価基準
S（優良）	協定書等の基準を遵守し、その水準を上回る内容である
A（良好）	協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿う内容である
B（課題あり）	協定書等の基準を遵守しているが、一部に課題がある
C（要改善）	協定書等の基準が満たされておらず、改善が必要である

1 業務の履行状況の確認

① 事業及び業務の履行状況

評価項目	指定管理者	施設所管課	
	自己評価	評価	特記事項
1. 協定書等で定める開館日、開館時間が遵守されているか	A	A	
2. 利用申請・許可、利用料金等の徴収、減免の取扱いは適正か	A	A	
3. 施設の利用状況（利用者数、利用率等）は適切な水準か	A	A	
4. 協定書等で定めた職員配置となっているか	S	S	
5. 配置されている職員は必要な資格を有しているか	S	S	
6. 適正な雇用・労働条件が確保されているか	A	A	
7. 緊急時の体制整備がされ、職員に周知徹底されているか	S	S	
8. 緊急連絡網や危機管理マニュアルは、最新の状態に保たれているか	A	A	
9. 避難誘導訓練等は実施されているか	S	S	
10. 協定書等で定めた保険に加入しているか	A	A	
11. 苦情対応に関する体制が整備され、職員に周知徹底されているか	S	S	
12. 個人情報は適切に管理されているか	S	S	
13. 市への報告や各種報告書の提出が適切な時期になされているか	A	A	
【新たに実施した取組み・改善した点】			
・開館方法・使用申請・職員配置等			
・『どなたでも利用していただける子育て支援センター』を目指し、様々なことに特化した時間枠（妊婦・年齢別・様々な年齢層の親子が利用できる時間枠・少人数定員制）を組み込んで施設を開放。それぞれの親子に合った時間を選んで利用できるよう工夫している。人とのコミュニケーションに苦手意識を感じている方や親子と向き合って過ごしたい親子の利用が定着してきている。			
・一時保育の急な利用希望があった場合は、状況を確認し、対応が必要な場合は速やかに手続きを行い、家庭に寄り添って対応している。			
・保育料無償化の申請希望がある家庭については、各月ごとに提供書証明書を発行し対応している。			
・一時保育については、低年齢児の利用が急増。なるべく多くの方の希望に添えるよう状況に応じて保育士を増員し、対応している。			
・学童クラブについては、土曜日に開所していない他の学童クラブの児童の受け入れを行い、共働き世帯が安心して勤務できるような環境を整えている。			
・利用状況			
・伴走型相談支援（妊婦面談）の実施により妊婦登録者数が伸び、産後早い段階からの利用者が急激に伸びている。			
・令和5年度より新しくなった開放方法が定着し、利用者数が前年度より1400人ほど増えている。			
・資格			
・職員は保育士、幼稚園教諭の資格を有しており、放課後児童支援員の資格を順次取得し、学童クラブ、支援センター、一時保育の各3事業が一体となって状況に応じ、柔軟な対応ができるよう備えている。			
・緊急対応時の体制強化			
・職員増員など変更の度、緊急連絡網を改正。緊急時や災害時の場合は、近隣の職員、常勤が出勤し、施設の状況把握や運営			

が速やかにできるよう体制を整えている。事前に悪天候が予想された場合は、市と相談し利用者の安全が確保できるよう対応している。

- ・防災訓練は、月に一度、地震・火災・不審者対応等、想定を変えて実施。緊急時に利用者が安全に避難できるよう備えている。また、緊急時の放送機器の操作など職員間で共通理解し、速やかな対応ができるよう訓練している。また、災害備蓄品として、水、食料、ミルク、哺乳瓶を確保し、災害時に備えている。
- ・災害時等は、市への報告や連絡、利用者への情報発信ができるよう携帯電話を導入し、緊急時に備えた環境を整備している。利用者が固定されている学童クラブにおいてはマチコミにて、緊急時により速やかな情報提供ができるよう体制を整えている。
- ・令和6年度より、学童クラブでは緊急時に備え、引き渡し訓練を実施。マチコミを活用して緊急連絡を配信、各家庭に安全に児童を引き渡す訓練を行った。
- ・天候などによる緊急時で職員の確保が難しい場合には、学童クラブと一時保育を優先して受け入れを行い、共働き世帯の安心に寄り添えるよう対応している。
- ・不審者及び事件情報などが発生した場合には、利用者へ周知、子どもの見守り活動の呼びかけを行い、対応している。
- ・職員は普通救命講習を受講し、緊急時に備えている。
- ・夏の熱中症対策として、学童クラブでは塩分チャージタブレットと水を準備し、時間を決めて提供し予防を徹底している。

・アレルギー児の受け入れ

- ・一時保育のアレルギー児の受け入れについては、家庭と給食提供にかかわる職員で情報共有し、安全に給食提供ができるよう努めている。また、個々のアレルゲンについての情報や保育中の配慮など職員間で共通理解を図り、必要な場合は職員を増員し、対応している。

学童クラブで提供するおやつに関しては、保護者に内容を確認して頂き、安全を確認した上、提供している。

- ・アレルギー児については、事前に消防署への情報提供している。エビペンの使用方法や緊急時の役割分担などについては職員間で共通理解し、緊急時に速やかに対応できるよう備えている。

・苦情に対する対応、整備

- ・駐車場への飛び出し防止として柵やプランターを設置して安全対策している。
- ・学童クラブや一時保育の送迎時専用の駐車スペースを設け、限られた駐車スペースを有効に活用できるよう対策している。
- ・利用者からの声は職員間で共有し、対応、改善できるようにしている。市との協議が必要な場合は、速やかに市に報告し、対応や改善をしている。
- ・葉山公園の点検時に不具合や危険個所があった場合は、速やかに市に報告し対応している。

・個人情報の取り扱い

- ・個人情報は鍵のかかる書庫に保管。他の機関との連携が必要な場合は、本人の同意を得て情報共有している。
- ・施設における現金の取り扱いについては、その都度銀行へ入金し、極力現金を置かないようにしている。
- ・令和6年度より利用者の要望によりネットによる写真販売を実施。販売、個人情報の取り扱い等についての同意を確認した上で販売を行っている。

【今後の取組み・課題】

- ・今後も子育て支援員や放課後児童支援員の資格を順次取得し、職員全員が専門知識を高めた上で、各事業で適切な対応ができるようにしていく。また、緊急時に備えて職員全体で協力し合えるような体制を整えておく。
- ・子育て支援センターにおいては、妊娠期からの切れ目ない支援を充実させていく。

② 独自事業の実施状況

評価項目	指定管理者	施設所管課	
	自己評価	評価	特記事項
1. 事業計画書で予定した独自事業は実施されているか	A	A	
2. 独自事業の実施にあたり必要に応じて保険に加入しているか	A	A	
3. 独自事業の実施にあたり広報等を行い、利用者の拡大を図っているか	S	S	
指定管理者記入欄			
【新たに実施した取組み・改善した点】			
・ 事業の実施、広報			
・ 施設全体及び地域に発信し、資源回収に取り組み、環境問題などに触れる機会を持っている。			
・ 父親の育児参加を推進するイベントとして『パパとあそぼう』を実施。父親が子どもと向き合って遊ぶ機会を設け、父親が家庭に寄り添い、積極的に子育てに協力するきっかけづくりとしている。それをきっかけとして家族での利用や父子での利用が増えてきている。その他、親子向けや、母親向けの外部講師によるイベントを積極的に実施している。			
・ 伴走型相談支援（妊婦相談）を実施している。市の保健師による体調確認や、出産までの過ごし方についてのアドバイス、当施設のスタッフによる出産に関する手続きや子育て支援センターの案内などを行い、妊婦登録につながっている。			
・ 妊婦と生後 2～3 か月の親子の利用枠『たまごとひよこ』を実施。妊婦が生後 2～3 か月の親子がかかわり合える場をつくり、妊娠期から切れ目ない子育て支援を目指し、対応している。			
・ インタラクティブの周知を図るため、月 2 回インタラクティブで遊ぶ機会『わくわくタッチの日』を設け、設備を周知。希望があれば、随時遊ぶことができるよう対応している。			
・ 利用者からの子育て不安に耳を傾け、それに対する事項についての情報を館内に掲示し、子育てに関する不安解消に対応している。また、流行している感染症などについては、その都度情報を伝え対応している。			
・ スクールバスや路線バスを利用している学童クラブの児童については、バス停から指導員が付き添い児童の安全確保に努めている。			
・ 長期休業中のイベントは、ボランティア団体と連携し、児童が楽しめる企画を計画。普段できない体験やイベントを実施し、長期休業中ならではの過ごし方で児童たちが楽しく過ごせるよう工夫している。また、異学年のグループで関わり合えるようなイベントなども実施し、学童クラブならではの環境を楽しめるような機会も設けている。			
・ 一時保育については、利用者が 0 歳～2 歳の利用が多く、低年齢化している。また、利用希望が多いため、保育士を増員して配置し、なるべく多くの家庭が利用でき、かつ安全に保育ができるよう対応している。			
・ 市や各機関との連携			
・ 子育て支援課の栄養士による『離乳食講座』や、子ども子育てコンシェルジュによる『就園準備講座：幼稚園入園編』、『就園準備講座：保育園編』を実施。市の専門的分野にかかわる職員の講座を積極的に実施している。			
・ 『一人で悩まない子育て』を目指し、健康推進課と連携を図り、気軽に相談できる『プチ相談』を月 3 回実施している。			
・ 妊娠期からの受け入れを目指し、当施設でのプレパパママ学級を実施している。			
・ 北部コミュニティセンターでの移動支援については、健康推進課や子ども子育てコンシェルジュと連携し、移動支援での育児相談を偶数月に実施。子どもを遊ばせながら気軽に相談できる場を提供している。			
・ 健康推進課の各事業（びよびよの会、乳児検診、1 歳 6 か月検診、3 歳児検診）で子育て支援センターだよりの配布や施設紹介を行い、周知に努めている。			
・ 学童クラブでは、学校行事や児童の下校時刻など学校と連携し、児童の見守りを行い、安全を図っている。また、必要な場合は子育て支援課に相談、教育委員会などと連携し、児童の安全が図れるよう対応している。			
・ 自転車を利用する児童については、家庭、小学校と連携して下校経路を共通理解し、児童の安全を図っている。			

- ・地域ボランティア団体によるイベントを実施し、地域交流の場を設けている。
- ・図書館による小学生向けの本の貸出制度『学童便』を利用。

【改善点・今後の取組み】

- ・北部地区の子育て支援の充実
- ・健康推進課や子ども子育てコンシェルジュと連携し、子どもの遊び場提供や育児相談、子育てにかかわる相談に対応し、北部地区の子育て支援の充実を図っていく。
- ・妊娠期からの利用
- ・今後も健康推進課と連携を図り、妊娠期の方も利用しやすい施設の環境づくりをしていく。

③ 施設の維持管理状況

評価項目	指定管理者	施設所管課	
	自己評価	評価	特記事項
1. 協定書等で定める保守管理業務が適切に実施されているか	A	A	
2. 協定書等で定める清掃業務が適切に実施されているか	S	S	
3. 協定書等で定める施設の管理業務が適切に実施されているか	A	A	
4. 備品購入を行った場合、備品台帳を整備するなど適切に管理されているか	A	A	
指定管理者記入欄			
【新たに実施した取組み・改善した点】			
・業務・清掃や施設の点検			
・各点検表を用いて、月１度、施設内点検と室外機点検を実施。			
・各事業の日誌の他、管理日誌を用いて、毎日の出来事の把握、施設内外・掃除・施錠の点検を実施している。			
・施設管理			
・水道メーター点検（週１回・連休明け）			
・外壁・屋根内側（８月・１２月・３月）			
・窓清掃（４月・８月・１２月・３月）			
・換気扇清掃（４月・１０月・３月）			
・施設内カーテン（７月・１２月）			
・消防機器点検（９月）			
・一時保育室量交換			
【改善点・今後の取組み】			
・今後も、施設内外の点検・清掃業務を行い、施設管理を遂行していく。必要である場合には、市と協議し修繕をしていく。			

2 サービスの質に関する評価

① 基本的事項

評価項目	指定管理者	施設所管課	
	自己評価	評価	特記事項
1. 利用者に対する言葉遣いや態度等の接遇が適切であるか	A	A	
2. 広報物が見やすく作成され、効果的な情報提供を行っているか	A	A	
3. 職員の資質向上のための研修等を実施しているか	S	S	
指定管理者記入欄			
【新たに実施した取組み・改善した点】			
・効果的な情報提供			
『子育て支援センターだより』だけでなく、各月の予定やイベント情報をホームページや Twitter への掲載。また、手軽に情報が確認できるよう QR コードでの発信も行っている。			
・職員の資質向上			
・当施設の職員は、子育て支援員と放課後児童指導員の資格を順次取得している。今後も職員の資質向上のために、研修への参加、資格の取得を推進していく。			
・3事業ともに普通救命講習を受講し、緊急時に対応できるようにしている。			
【改善点・今後の取組み】			
・今後も職員の資質向上のために、積極的に研修へ参加し、資格の取得を推進していく。			
・今後も多様な形で情報発信に努め、施設やイベントの周知を図っていく。			

② 維持管理業務

評価項目	指定管理者	施設所管課	
	自己評価	評価	特記事項
1. 施設は清潔に保たれ、整理整頓がされているか	S	S	
2. 事故の未然防止のため、定期的に設備や備品の確認を行っているか	A	A	
3. 文書管理に関する規定を定め、文書が適切に管理・保管されているか	A	A	
4. 電気、水道等の使用量削減など、環境に配慮した取組がされているか	A	A	
5. 管理運営費節減のための取組がなされているか	A	A	
指定管理者記入欄			
【新たに実施した取組み・改善した点】			
・ 毎日、各事業で担当した各場所の清掃、消毒作業を行い、利用者が気持ちよく施設を利用できるようにしている。			
・ 点検により保育環境の改善が必要だと思われる場合は、共通理解すると共に、その都度対応している。			
・ 節電への取り組みなど、職員一同、経費削減に努めている。			
・ 資源回収を実施。リサイクル活動を通して資源を有効活用している。			
【改善点・今後の取組み】			
・ 引き続き、施設の点検や安全管理、節電などに努めていきたい。			

③ 運営業務

評価項目	指定管理者	施設所管課	
	自己評価	評価	特記事項
1. 平等な利用を確保し、公平な運営を行っているか	A	A	
2. 独自事業の実施にあたり、事前調整や広報など円滑な実施に努めているか	A	A	
3. 利用者満足度を向上させるための方策を講じているか	A	A	
4. 利用者アンケートの結果を業務改善に反映させているか	A	A	
5. 自己評価を実施し、管理運営の見直しや業務の改善を行っているか	A	A	
6. クレームに対して適切に対応し、以降の運営に生かされているか	A	A	
7. 利用者同士の交流、気軽に子育ての相談ができる環境作りを行っているか	S	S	
8. 施設を子育てネットワークの拠点として活用しているか	S	S	
指定管理者記入欄			
【新たに実施した取組み・改善した点】 ・平等、公平な運営 ・一時保育の利用希望が多い場合は、公平な人数調整をし、できる限り希望に沿った利用ができるよう対応している。 事情がある場合や緊急性がある場合は随時対応し、できる限り利用できるよう配慮している。 ・気軽に子育ての相談ができる環境づくり ・初めて施設を訪れた方や、突発的な子育て相談等については、開放時間外でも随時対応している。 ・子育てに関する相談を受けた場合は、子ども子育てコンシェルジュ・ファミリーサポートセンター・健康推進課など、必要である機関と連携を図り、対応している。 ・安心して利用できる環境づくり ・子育て支援センターでは、0～5 歳児の子どもたちが安全に利用できるよう室内環境の見直しをその都度行っている。特に乳幼児が安全に過ごせるよう、0 歳専用スペースを作り、安心して過ごせる空間を確保している。また、1 歳未満の利用時間においても低月齢と高月齢のスペースを分け、安心、安全に過ごせるよう配慮している。 ・デマンド交通の周知 ・交通手段に困っている家庭に周知を図り、地域資源が有効活用できるよう対応している。 ・地域のこども見守り活動 ・葉山公園を利用するや地域の子どもの安全を確保に努め、その都度対応している。 ・相談記録 ・相談内容を記録に残し、職員間で情報共有し、利用者に寄り添った対応ができるよう役立てている。 ・視察対応 ・他の市町村などから視察の要望があった場合は、市と連携し対応している。 ・Wi-Fi の導入 ・Wi-Fi ルーターを設置し、学童クラブ内でのオンライン学習に対応している。			
【改善点・今後の取組み】 ・利用者のニーズに対応しながら市内の子育てにかかわる家庭の拠り所となるような施設にしていける。			

3 サービス提供の継続性及び安定性に関する評価

① 施設運営及び事業収入の状況

評価項目	指定管理者	施設所管課	
	自己評価	評価	特記事項
施設運営及び事業収入の状況			
事業収支について収支計画書と乖離がないか	A	A	
管理運営経費は内訳も含め妥当であり、適正に執行されているか	A	A	
指定管理者の経営状況			
監査報告書に異常な指摘事項はないか	A	A	
財務諸表に異常値がなく、前期比変化が大きい場合、その理由は妥当か	A	A	
指定管理者記入欄			
【特記事項】			
昨年度に比較し、利用料収入が減少した一方で人件費が増加している。バランスの取れた収支を図れるよう改善を図っている。			

■総合評価基準

評価	評価基準
優良	すべてが A または S であり、S が 4 割以上である。
良好	A または S が 8 割以上で C を含まない
一部課題あり	すべてが B 以上の評価である
要改善	評価項目に C が含まれている

■総合評価

指定管理者		施設所管課	
総合評価 (自己評価)	良好	総合評価	良好
【成果・向上を図った点】 子ども家庭庁が取り組んでいる未来戦略方針のひとつである『すべての子ども、子育て世代に対する切れ目ない子育て支援』の基盤づくりに力を入れた。 令和5年度より始動した伴走型相談支援（妊婦面談）の実施に加え、令和6年度は、妊婦と子育て家庭がかかわるような場をつくり、子育て支援センターの妊婦登録者数が伸びた。また、妊娠期に子育て支援センターが周知されることにより出産後早い段階からの子育て支援センターの利用者も確実に伸びてきている。		【成果・向上を図った点】 子育て支援センター事業では、ひよこタイム（妊娠期・1歳未満）、1歳児、2歳児、0～5歳児を持つ親子など様々な利用やニーズ等に応じた、当日利用の自由枠や予約枠を設けることで、妊婦や生後低月齢のこどもを持つ利用者が増え、親子でじっくりと向き合って過ごす、同世代の子どもを持つ親が子育てについて共感し、情報交換などの交流を通して、継続的に繋がり続けることで、孤立化を防ぎ、社会的なつながりを維持する場の提供に努めた。	

また、『だれもが利用できる子育て支援センター』として、様々な利用枠を設けて開放し、子育て家庭の居場所づくりの充実に努めた。各家庭がそれぞれのニーズに合わせて利用しており、特に年齢別の時間枠は、成長過程による不安や困りごとを互いに共感しあえることも多いため、利用者が増えている。 『いつでも利用できる』の『量』だけでなく、『誰もが利用できる』の『質』にこだわり、人とつながりながら、安心して過ごせる場、子育てに役立つ場を提供していきたい。 家庭の枠組みだけでなく、同世代の子どもを持つ親同士で子育てについて共有し合える場の提供が、育児に対する選択肢を増やし、スタッフとのかかわりが日々奮闘する育児に対する気持ちの支えや身近な存在となるようにしていきたいと考えている。 一時保育では、お子さんをお預かりするだけでなく、家庭とは違う場で過ごす中でのお子さんの成長を発信し、小さな成長を見逃がさず、子育てに対して喜びを感じながらお子さんと向き合えるよう、各家庭にかかわりへの充実、母親の子育てに関する悩みや不安に寄り添うことに力をいれている。 学童クラブでは、児童たちの生活の場として家庭的なあたたかい雰囲気を大切に、集団でありながらも児童一人ひとりが安心して生活できる場づくりに力を入れている。また、仕事や家庭と子育てを両立する母親の子育てに関する不安や悩みにも寄り添うことを大切にしている。 3事業共に子育て家庭と信頼関係を築き、子育てについての不安や悩みに寄り添い、市の子育てに関する機関と連携を図りながら、『一人で悩まない子育て』『孤立しない子育て』に向け、富里市の子育て家庭を支えていきたい。また、状況に応じて柔軟に変化し続け、富里市の地域子育て支援拠点としての機能を果たしていきたいと考えている。	こどもの年齢など様々な年齢層の親子が利用できる時間枠、少人数定員制を組み込んだ施設利用の改善に取り組んだ結果、令和5年度の利用者数 10,042 人に対し令和6年度の利用者は 11,476 人で1,434 人増（14%増）の成果をあげた。 一時保育事業では、利用者の増に伴う安全面の配慮に應えるため、職員を増員して一時保育を実施した。一時保育の目的である「保護者の就労形態の多様化に伴う一時的な保育、保護者の疾病等による緊急的な保育及び保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の軽減を図る」ことができた。 放課後児童健全育成事業（学童クラブ）では、授業終了後、保護者に代わり児童が安全に安心して遊びや勉強などを行う環境を提供した。また夏季休暇等では、平日に受入れている小学校区以外の児童も積極的に預かり、学校とは異なる家庭的な雰囲気を保った生活の場を提供し、児童たちの心の安定を図っている。
--	--

【課題・今後に向けて】

- ・妊娠期から生後にかけて『切れ目ない子育て支援』を充実させていく。
- ・利用者のニーズ、時代や状況の変化に寄り添いながら、『子育てにかかわるすべての方が利用しやすい施設』、『質』にこだわった子育て支援を充実させていきたい。

【課題・今後に向けて】

0～5歳人口が減少傾向（令和2年3月末 1,994人～令和6年3月末 1,626人）にある中、子育て支援センター事業の利用者数を見ると、コロナ禍以前の利用状況に近づきつつあり、富里市こども館（葉山キッズ・ランド）の利用ニーズが高まっていることがうかがえるため、今後とも妊婦、子育て世代の家庭が利用しやすい地域の子育て支援拠点施設として運営にあたっていただきたい。

子育て支援センター事業の利用者数

年度	利用者数
H29	15,490人
H30	14,605人
R1	13,248人
R2	4,399人
R3	7,674人
R4	9,183人
R5	10,042人
R6	11,476人